

県庁通りまちづくり行動計画

分類	内容	事業	短期（1年以内）	中期（1～3年）	長期（3年以上）	
集客につながるまちづくり	「健康」をテーマとした個店活動の実施	1店1品“体にやさしい商品”を提供		○		
		大原総合病院来院者への優待サービスの検討	○			
		緑化、植樹、バードハウスの設置による癒し効果	○			
		大原総合病院との医商連携の検討	○			
		医商連携に向けた先進地視察	○			
	商店街空間の統一感演出	県庁通りが分かる掲示版の作成			○	
		マップの作成（※）	○			
		キャラクター（健康・商売繁盛の神様等）の作成			○	
		県庁通りにスピーカーを設置				○
	商店街業種業態の強化	統一ファサードによる演出（看板、オーニングテント等）、景観形成				○
		新規店舗の誘致			○	
		子どもの居場所の創出（※）			○	
高齢者のたまり場の創出				○		
イベント・PR	イベント事業の計画と継続事業化	手仕事市、軽トラ市、ヨガや体操イベント、骨董市、アート市、古本市等	○			
		マップの作成（※）	○			
	街の広報事業の推進	県庁通りホームページの作成			○	
		夜間ライトアップの工夫による景観の演出				○
持続可能なまちづくり	商業者を育成する仕組みづくりの検討	創業希望者を対象としたWS、セミナーの開催等若手事業者の育成			○	
		チャレンジショップの検討			○	
		組合員による創業者支援	○			
	建物など商業空間の再生利用研究	空き店舗再開促進	○			
		リノベーションによる商業環境整備			○	
	子供たちへの学びの場の提供	宿泊施設を併設した店舗を用意することにより2地域居住を提案				○
		子ども、高校生、大学生、留学生との連携によるまちづくり			○	
	県庁通り組織の強化、改編	子どもの居場所の創出（※）			○	
		店舗間の相互理解を図る	○			
		組合内のコミュニケーション強化	○			
		統一感のあるまちづくりに向けたルール作り	○			
			周辺商店街との連携とまちづくり協議			○

（※）重複している項目に対して記載しております。

県庁通りまちづくり計画

Kencho Street Town Development Plan



（提供：福島市教育委員会）

県庁通商店街振興組合では、平成24年の県庁通りリニューアル検討会の発足後、県庁通りが目指すべきまちづくりについて検討を重ね、平成29年3月31日に「県庁通りまちづくり計画」を策定いたしました。

「県庁通りまちづくり計画」は、現在の県庁通りの課題に対する取り組みについて、「組合が自ら取り組むべきこと」と、「行政機関等と協力しながら今後検討していくべきこと」に大別し、それぞれの実施内容について記載しています。

今後、本計画に基づき具体的な事業を進めてまいりますので、組合員の皆様には何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

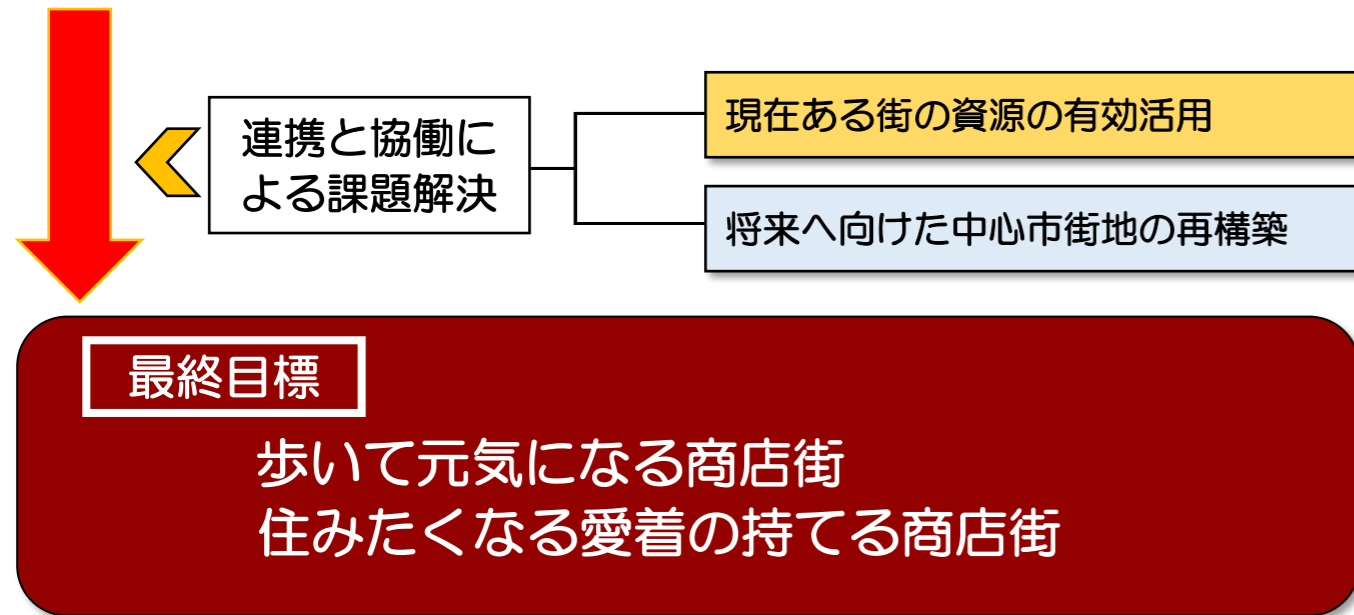
県庁通商店街振興組合理事長 中野 義久



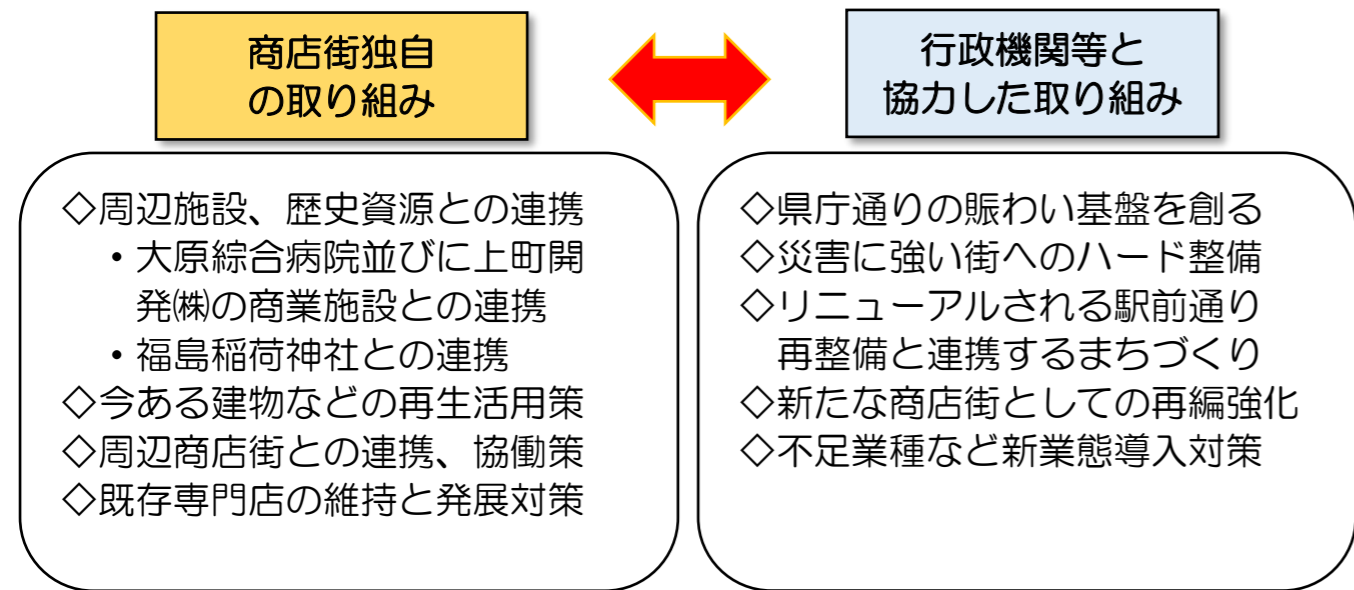
1. 県庁通りにおける課題解決の考え方

県庁通りの現況と課題

- 郊外部への立地移動による停滞
- 大型店撤退による集客波及効果の減退
- 大原総合病院移転による新しい役割の検討
- 個店の売上げ拡大に繋がる集客策
- 建物やアーケードなどの附属施設の老朽化
- アーケードの撤去や歩道の舗装などの景観上、安全上の課題



2. 課題解決に向けた2つの視点



3. 今後の具体的な取り組み

集客につながるまちづくり

1. 1店1品“体にやさしい商品”を提供
2. 大原総合病院並びに上町開発(株)の商業施設との連携
3. 福島稲荷神社との連携
4. 緑化、植樹、バードハウスの設置による癒し効果
5. 県庁通りが分かる掲示版・マップの作成
6. 県庁通りキャラクター（健康・商売繁盛の神様等）の作成
7. 新規店舗の誘致
8. 子どもの居場所・高齢者のたまり場の創出



イベント開催、PR活動

1. イベント事業の計画と継続事業化
→手仕事市、軽トラ市、ヨガや体操イベント、骨董市、アート市、古本市等
2. 県庁通りホームページの作成
3. 夜間ライトアップの工夫による景観の演出



持続可能なまちづくり

1. 創業希望者を対象としたWS、セミナーの開催等
若手商業者の育成・支援
2. 組合員による創業者支援
3. リノベーションによる商業環境整備
4. 子ども、高校生、大学生、留学生等との連携
5. 店舗間の相互理解を図り、コミュニケーションを強化（清掃活動等）
6. 統一感のあるまちづくりに向けたルール作り
7. 周辺商店街との連携とまちづくり協議



商店街の環境基盤整備

1. 老朽化したアーケードの危険性の回避と、商店街のイメージアップ
2. 歩きやすい舗装や照明、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化等、人にやさしいまちづくり
3. 共同化事業における資産活用の検討
※共同化事業…低層部に店舗を配し、上層階に住宅を配置することなどによる資産活用の手法